

# 単元を貫く言語活動の充実に関する研究

## ～国語「読むこと」の授業づくりを通して～

M12EP013

横森 一哲

### 1. はじめに

国語科では、小学校学習指導要領解説国語編(以下解説書※)によれば、各領域の内容を(1)の指導事項に示すとともに、これまでは内容の取り扱いに示していた言語活動例を内容の(2)に位置付け再構成している。各学年の内容の指導に当たって、(1)に示す指導事項を(2)に示す言語活動例を通して指導することを一層重視するからである。さらに、「指導のねらいを確実に実現するために単元を貫く必要がある」(水戸部, 2012)。しかし、現場では、単元を貫く言語活動の広がりが進まず、具体化には、課題がある。そこで、本研究では、単元を貫く言語活動を現場で広める方法の提案と、単元を貫く言語活動を充実するために必要なことは何かを、「C読むこと」領域にしぼって、明らかにしたい。

本研究で取り組んだ基本的な考え方を次に説明する。

#### (1)「単元を貫く言語活動」について

単元を貫く言語活動とは、学習指導要領に示された言語活動を単元を通して意識しながら学習を進めることである。単元を貫く言語活動を位置付けることによって、指導のねらいを確実に実現することができる。また、主体的な思考・判断を伴う学びとすることができ、目的や必要性を子ども自身が実感して学習することができる。さらに、単元の学習活動がねらいの実現に収束するため、結果的に時間の短縮にもつながる(水戸部, 2012)。

#### (2)C領域「読むこと」の指導事項「自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」を中心にした研究であることについて

解説書※の総説にあるように、子どもたちが生きていく社会では、知識基盤社会化やグ

ローバル化が進むため、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性が増大している。このような状況において、国語科の指導事項の中で最も大切であるのは、「自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」だと筆者は考えている。そこで、研究の対象をC領域「読むこと」の「自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」を中心に研究を進めることとした。

#### (3)読書指導について

学習指導要領の「総則」の「第4指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」で、学校における読書指導について示されている。これに加え、国語科における読書指導についてC領域「読むこと」の指導事項に、「目的に応じた読書」に関する指導事項が位置付けられた(杉本, 2010)。さらに、解説書※では、「読書活動の充実」として、目的に応じて本や文章などを選んで読んだり、それを通して自分の考えを記述したりすることや、日常的に読書に親しむために、学校図書館を計画的に利用し必要な本や文章などを選ぶことができることなどが重視された。読書指導の重要性が示されたと筆者は考え、今回の研究に取り入れてみた。

#### (4)「単元構想表」を用いた評価について

きちんと評価を行うために、単元の構想を「単元構想表」(富山, 2012)にまとめた。そこには、評価規準を位置付けてある。評価を中心とした単元構想をした上で授業に取り組んでいった。付けたい力が明確になり、解説書※の指導事項に基づいて学習活動が設定されるとともに、その中で特に重点とする指導内容が明確になり具体的な評価規準も設定されるからである。そこで、自分の実

践に取り入れることにした。

## 2. 先行研究

「はじめに」に示したとおり、今まで、単元を貫く言語活動を具体化した事例は民間の国語に関する研究会、各種の論文や雑誌への投稿などにおいて、実践され発表されてきている。しかし、現場では「単元を貫く言語活動」という言葉はまだ馴染みが薄い。より多くの教師が単元を貫く言語活動の実践にふれやすくするための研究や、単元を貫く言語活動を位置付けたときの課題についての研究はまだ十分とは言えない。

## 3. 研究の目的

- (1)「単元を貫く言語活動」のデータベースづくり。
- (2)「単元を貫く言語活動」の充実に関する授業実践と検証。

## 4. 研究の方法と内容

### (1)「単元を貫く言語活動」のデータベースづくり

- ・「単元を貫く言語活動」の実践例を出版されている本10冊からまとめた。
- ・今年度実際に参加した二つの研究会に出された実践からまとめた。
- ・全ての実践事例を一つにまとめたデータベースと、検索しやすいように2学年ごと、各領域ごとにまとめたものを作成した。
- ・実習校の教師に試行段階の事例検索を使用してもらい、改善した。

### (2)「単元を貫く言語活動」の充実に関する授業実践と検証。

単元を貫く言語活動を「4年1組 図書室へ行こう 大作戦」と具体化した実践

**第1弾** 「この本読んでねカード」の作成

日常の読書生活と学校図書館を結びつける実践。

**第2弾** 「『読書こだわりポスター』をつく

って友達と交流しよう」と具体化した実践  
(第4学年 『三つのお願い』を中心教材にした授業実践)

「指導事項 C-オ文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」と「指導事項 C-エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」を指導するのにぴったりの言語活動例として「ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと」を位置付け、「『読書こだわりポスター』をつくって友達と交流しよう」と具体化した。

## 5. 研究の結果と考察(研究成果を含む)

### (1)「単元を貫く言語活動」のデータベースづくり

このデータベースの使い方を以下に示す。

- ① 2学年ごと、各領域ごとにまとめた【表1】で、子どもにつけたい力「指導事項」の項を見る。そこには、どの言語活動例をどのように具体化して指導したかが分かるようになっている。
- ② 詳細な実践を知りたい場合は、【表1】の先頭の番号と同じ【表2】(全ての実践事例を一つにまとめたデータベース)を見る。
- ③ 全ての実践事例を一つにまとめたデータベース【表2】から、掲載図書、ページ、指導者、著者・编者、出版社、関連図書などが分かる。

10月までに事例検索システムとしてまとめ、実習校の2名の教師に使ってもらった。

1名の教師からは、実践事例についての問い合わせがあり、資料を提供することができた。

### 〈データベースづくりから見えてきた新たな視点〉

「単元を貫く言語活動」のデータベースづくりから見えてきたのは、「単元を貫く言語活動」の具体化には、読書指導に関わるものが

【表1】 検索しやすいように2学年ごと・各領域ごとにまとめた

番号	学年	指導事項	指導事項	言語活動	言語活動の具体化	教材
3	2	A-ア 話題設定や取材に関する指導事項	A-オ	A-ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを開いて感想を述べたりすること。	見つけたことを知らせよう	教科書教材、探検カード、写真、地図等
48	1	A-イ、A-オ	「おはながい」をひらこう		教科書教材『おもちゃの作り方』 教材文『ぶんぶんごま』	
58	2	A-イ、A-ウ	1年生を招いて、作り方を説明する発表会			教科書教材『どうぞ よろしく』
60	1	A-エ	友達の自己紹介を開いて感想を述べる			

指導事項  
=  
付けたい力

指導事項が、  
左に示した  
以外にもあ  
る場合

指導事項・付け  
たい力にふさわ  
しい言語活動例

言語活動例を基  
にして  
言語活動を具体  
化する

どんな教材を使用している  
か  
教科書教材、自作教材、そ  
の他

【表2】 全ての実践事例を一つにまとめたデータベース

番号	学年	領域	領域	指導事項	言語活動例	具体化(単元名)	教材	掲載図書名 ページ	指導者	著者・編者出版社
1	1	C読むこと		C-ウ 力	C-オ	本の小箱を作ってお気に入りの本を紹介しよう	文学的な文章の教科書教材低学年向けの、繰り返しや場面の様子がおもしろい物語の本	言語活動の充実に関する指導事例集 P19-20		文部科学省 教育出版
2	2	B書くこと		B-ア イ	B-オ	がんばっていることを手紙で知らせよう	教科書教材文 自作のモデル文章教材	言語活動の充実に関する指導事例集 P21-22		文部科学省 教育出版
3	2	A話すこと・聞くこと		A-ア ウ エ	A-ア	見つけたことを知らせよう	教科書教材、探検カード、写真、地図等	言語活動の充実に関する指導事例集 P23-24		文部科学省 教育出版
4	2	B書くこと	C読むこと	B-イ エ	B-ウ エ	読んで調べたことを紹介文に書く	ピーターの生涯についてやさしく述べている教科書教材文 関連図書資料	言語活動の充実に関する指導事例集 P25-26		文部科学省 教育出版

多く、授業者が創意工夫した言語活動の具体化をしていくにも読書指導が有効ではないかという思いであった。参考になった文献は、「PISA スーツケース」と、日本版「PISA スーツケース」の開発（水戸部，2010）である。「PISA スーツケース」とは、読書力を高めるための指導方法論及び教具一式である。ここには、様々な読書行為の具体化があり、これまでの多くの実践の基となっていると考えられる。

さらに、文献研究を進めていくと、読書指導の中には多くの「読む」行為が含まれており、この「読む」行為を大事にすることが、読書指導の充実につながるようになる。改めて「読む」行為の指導が大切であることが見え始めてきた。そこで、単元を貫く言語活動として、読む行為を中心とした読書指導に関わるものを主な内容として研究を進めることにした。

(2) 「単元を貫く言語活動」の充実に関する

授業実践と検証。

「4年1組 図書室へ行こう 大作戦」  
第1弾－「この本読んでねカード」の作成  
～日常の読書生活と学校図書館を結びつける実践（杉本，2010を参考にした事例）～

「4年1組 図書室へ行こう 大作戦」を大単元として、時期を分け、第1弾と第2弾の2単元を行った。第1弾は、第2弾への子どもたちの目的意識と意欲を高める役目を担っている。4年1組から「もっと本を読もう」、「もっと図書室へ行こう」と発信するという目的意識で子どもたちは学習に取り組んだ。

第1弾では、「この本読んでねカード」（図1）という本の紹介カードをつくり図書室に配置した。2学期から、読んだ本を「わたしの読書生活」というカードに、書名・著者名・出版社名、本を読んだきっかけ、気に入ったところの引用、感想などを記録してきた。記録した中で、一番おすすめの本を「この本読んでねカード」にして紹介した。作成した「こ

の本読んでねカード」の裏には、その本を読んだ感想を書いてもらう欄がある。作成した子どもと読み手がカードを通して交流することができる。感想を書いてもらった子どもは、とても喜んでいて。



図1 「この本読んでねカード」

「4年1組 図書室へ行こう 大作戦」  
第2弾－「読書こだわりポスター」をつくって友達と交流しよう

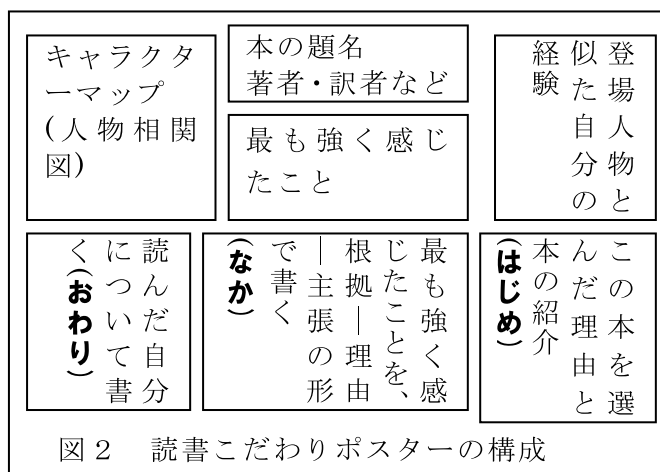
○「4年1組から全校に発信」する目的意識の醸成

第1弾から1ヶ月ほどして、第2弾を行った。第1弾で学校図書館に設置した「この本読んでねカード」(図1)をもっと活用してもらったり、学校図書館にもっと来てもらったりするにはどうすればいいのか、子どもたちに問いかけると、ポスターをつくらうという案が出てきた。子どもたちの発案であるポスターづくりは、自分たちの主体的な行為である。教師からの働きかけで決まる学習と違い、「4年1組から全校に発信」するという学習活動となるため、目的意識をもって第2弾に取り組み始めることができた。

○子どもたちの思いと教師の思いが一致した「読書こだわりポスター」

教科書では、言語活動を「読書感想文を書く」こととしている。しかし、子どもたちの実態は、自分の考えを書くことがあまり好きとは言えず、意欲的な学習になるとは考えにくい。筆者としてもポスター形式が学級の実

態に合っていると感じていたところ、子どもたちの思いと一致した。そこで、「読書こだわりポスター」という形を取って、読書感想文を、「はじめ」、「なか」、「おわり」のパーツに分け、ポスターの形式にすることとした。ポスターをつくってはいるが、ポスターの中に書かれたパーツをつなげれば、読書感想文になっている。



○読書指導：「バックグランド・ナリッジ(背景の知識)」の確認、「題名と表紙読み」、「予測読み」、「解釈読み」の実施

教科書教材『三つのお願い』を共通教材として、グループで「読書こだわりポスター」をつくった。1時間目に、教師自作の既習の「一つの花」の「読書こだわりポスター」を子どもたちに見せた。その後、読書指導として「ブッククラブ」(有元, 2010)の考え方を入れた読み聞かせをした。「題名と表紙で予測」をまずさせた。続いて、「予測読み」「解釈読み」などをさせながら、読み聞かせを行った。短い時間で、『三つのお願い』を理解・解釈させるという意図で行った。『三つのお願い』に登場する「1セント」について、画像を見せながら説明した。これは、『三つのお願い』を理解するためのバックグランド・ナリッジ(背景の知識)の一つである。読み聞かせのあと、ポスターにしていく本のテーマを子どもたちに問うと、「友達」というテーマが出てきたので、『三つのお願い』の内容のおおよ

その理解ができたと言えるだろう。

#### ○読書指導：並行読書の実施

『三つのお願い』の「読書こだわりポスター」をつくる活動と並行して「友達」をテーマにした複数の本を教室に置き読んでいく。これらの本は、事前に司書に選書してもらった。「読書こだわりポスターをつくって交流する」という課題をもったその日から「友達」をテーマにした並行読書を始めた。教科書と並行して他の本を読む並行読書は、読書量の確保と選書の機会を保障することができる。

#### ○単元を貫く言語活動を充実させるための、第二次の指導過程の改善

単元全体を大きく三つに分け、ここまですを一次とすると、二次には、教科書教材の「読書こだわりポスター」をつくり、三次に自分で選んだ本の「読書こだわりポスター」をつくることになる。自分の選んだ本の「読書こだわりポスター」をつくらうとしてもいきなりはできない。そこで、二次の教科書教材で「読書こだわりポスター」のつくり方を学ぶ。二次の学習で、三次の課題意識をもって学習を進めていくのである。そうすると、並行読書をしてきている子どもたちは、三次には、すぐに自分の選んだ本の「読書こだわりポスター」つくることができ、それを使って感動を伝え合うことができる。

#### ○読書指導：リーディングパートナーと本を読む

教科書教材では、あらかじめ、意図的に2人組（お互いが「リーディングパートナー」）をつかった。一人で、なかなか読み進められない子をつくらないために、どちらかがリードできるようなペアとした。さらに、ペアを2組合わせたグループも話し合いのために意図的に組織した。

本を読むときには、まず自分の考えをもってから友達と交流することがよく行われるが、ここでは、はじめから友達「リーディングパートナー」と読む活動を入れた。学習感

想からは、「パートナーの考えが分かってよかった。」「相手が見付けてくれたのでよかった。」「自分では思わなかったことが分かってよかった。」などがあり、友達の考えのよさや、一人ではなく二人で読むことのよさなどに気付くことができていた。その後、「キャラクターマップ」(註1. 図3)をグループでつくった。学習感想には、「今日グループで話し合っすぎていろいろな意見があることを知った。」さらに、「今日は、グループやペアで、話し合いました。わたしは、ペアよりグループの方が、意見や新しい考えが思いつくから、グループで話し合うときは、『いいなあ。』と思いました。」と、より多くの考えがあることのよさを感じている感想もあった。

#### ○物語を読んで最も強く感じたことを一文で表す

教科書教材では物語を読んで最も強く感じたことをリーディングパートナーと一文で表し、その後、グループで交流しグループの一文とした。

#### ○読書指導：登場人物と似たような自分の経験を書く（パーソナルリーディング）

教科書教材では一文で書いたことに関係する自分の経験を書き、交流した。これは、パーソナルリーディングといわれる読み方である。今まであまりしてこなかった読み方の一つである。登場人物の気持ちを考えるのではなく、「自分にも同じようなことがなかったか。」「自分だったらどうするか。」などのパーソナルリーディングは、「私だったら、・・・」や「私は、・・・」と自分の意見を主張できることにつながっていくと考える。

#### ○読書指導：「しょうこ(根拠)」,「理由」,「答え(主張)」で自分の考えをつくる

最も強く感じたことを具体的にどのように感じたのか、なぜそう考えたのかを、明

表3 一文で書いたことに関わりのある部分の引用、要約

「しょうこ(根拠)」 「...というところから」	「理由」 「...というところから」	「答え」 「...というところから」
「しょうこ(根拠)」 「...というところから」	「理由」 「...というところから」	「答え」 「...というところから」
「しょうこ(根拠)」 「...というところから」	「理由」 「...というところから」	「答え」 「...というところから」

気持ち  
友達を思いやる気持ち

らかにしていく。それは、文章の中から根拠を見つけ、理由を考えることである。まず、教科書教材では、一文で表したことに関わりのある部分を見付け、引用したり要約したりして、付箋に書いていった。その付箋を、「し

ようこ(根拠)」の欄に貼る。次に、「答え(主張)」の部分は、グループで決めた一文を書く。最後に、リーディングパートナーと「理由」を考えていった(表3)。『「しょうこ(根拠)」』から、わたしは、『理由』こう考えたので(と解釈したので)、こう『答え(主張)』なります。」という流れ(鶴田, 2010)である。さらに、ワークシートにまとめたことを、リーディングパートナーと考えを伝え合いながら、文章にしていくことができた。

○読書指導：読んだ自分について書く

「読んだ自分について書く(読んで、どんな気付きや発見があったかを書く)」活動で、これも、パーソナルリーディングの一つである。読んだ本が自分にとってどんな存在なのか、どんなことをその本が伝えてきたのか、自分の心の中をまとめることになる。この部分は、一人ずつ書いた。

○この本を選んだ理由と本の紹介(はじめ)を書く

教科書教材ではこの項は不要だが、今後各自で行う活動では、その本を選んだ理由や本の紹介を書きパーツの一つとする。

○このようにしてつくってきたパーツを模造紙に貼って、グループで1枚の教科書教材『三つのお願い』の「読書こだわりポスター」を完成させた。

○グループで学んだことを生かして、自分の「読書こだわりポスター」をつくる

これまでのリーディングパートナーやグループで学習したことを生かして、並行読書の中から自分で選んだ本について一人て「読書こだわりポスター」をつくっていった。以下は、アーノルド＝ローベル作、『ふたりはいつも』を選んだ子どもの作品である。

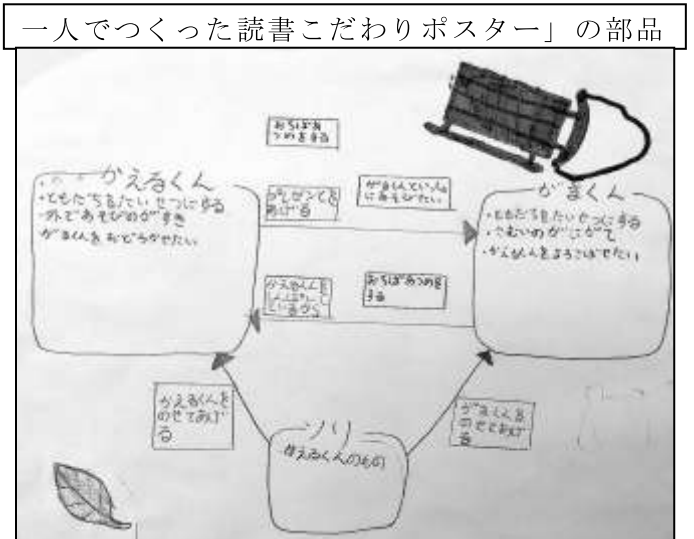


図3 「キャラクターマップ」 註1 作品に登場する人物や事物の関係を示す人物相関図

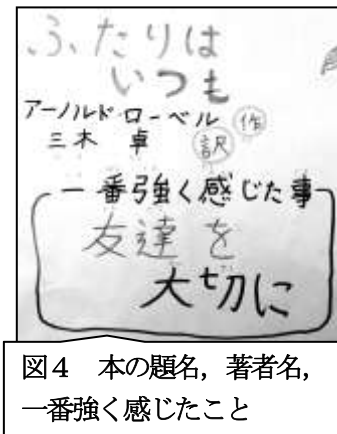


図4 本の題名、著者名、一番強く感じたこと

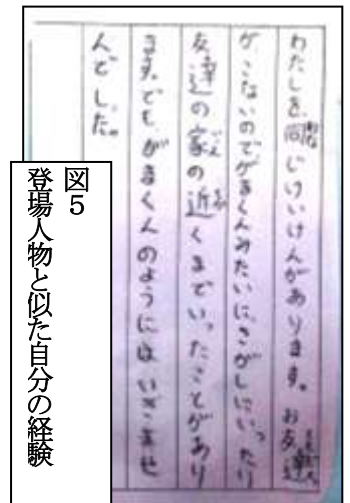


図5 登場人物と似た自分の経験

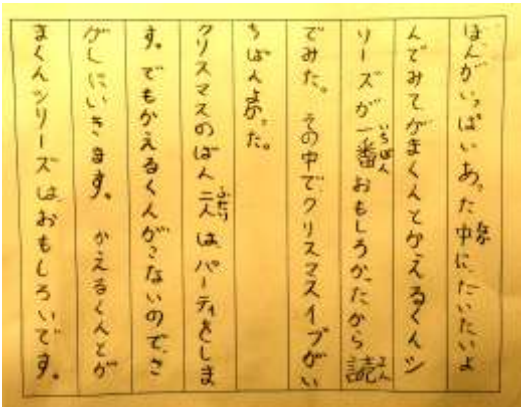


図6 この本を選んだ理由と本の紹介（はじめ）



図9 つくったパーツをはってできあがり

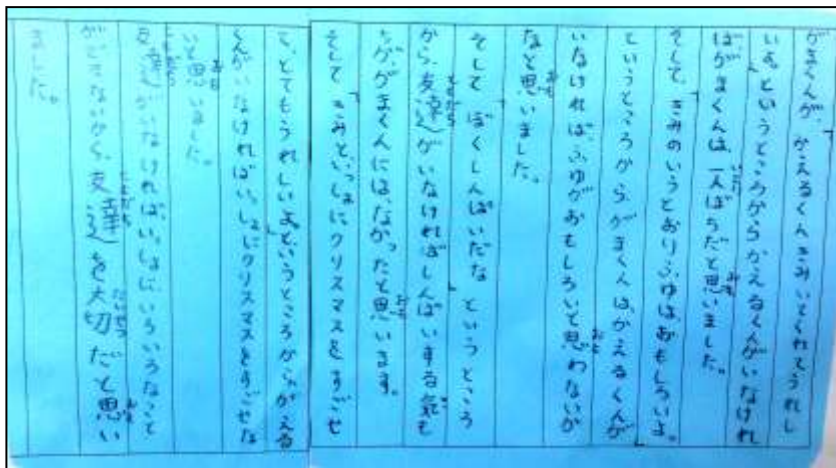


図7 最も強く感じたことを、根拠一理由一主張の形で書く（なか）

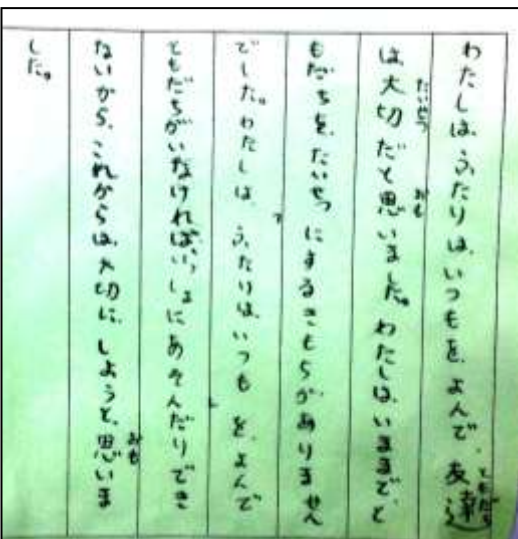


図8 読んだ自分について書く（おわり）

○グループでポスターを使って伝え合い

学習感想からは、「〇〇さんは、やさしいきもちもあるけど、うそをつくんだなど感じていたけど、わたしはやさしいきもちでやったんだから、とてもやさしいと思いました。」（互いの感じ方や考え方の違いに気付いている）「いろいろな本の話聞いてグルー

プのみんなの本を読みたくなくなったし、いろいろなことが分かって良かったです。」（読書意欲の高揚が見られる）「本にはいろいろなことに勉強になるんだな、と思いました。みんなの考えを聞いて、人それぞれ考えが違うんだと感じました。」（本の魅力を再認識している）などの記述が見られた。このことは、本単元の指導事項である「互いの感じ方や考え方の違いに気付く」ことができると同時に、読書に対する関心の高まりが育っていると言えるだろう。このことは、本単元の重点指導事項「つくった『読書こだわりポスター』を使って、読んだ感動や感想を発表し合い、互いの感じ方や考え方の違いに気付いている」の評価が、A-15人、B-12人、C-1人となったことからとも言えると考えられる。

表4は、「4年1組 図書室へ行こう 大作戦」第2弾実施前(10月)と実施後(12月)の児童のアンケート結果である。

表4 「読むこと」に関するアンケート (人)

	本を読むのは好きですか		読んで思ったことや考えたことを、書くのは、好きですか。		読んで思ったことや考えたことを、友達と話すのは、好きですか。		学校の図書室や市立図書館に行くのは、好きですか。	
	10月	12月	10月	12月	10月	12月	10月	12月
はい	21	22	1	12	6	11	22	21
いいえ	2	4	16	13	19	15	3	3
どちらでもない	6	4	12	5	4	4	4	6

このクラスの課題であった「読んで思ったことや考えたことを、書くこと」と「読んで思ったことや考えたことを、友達と話すこと」の両方とも好きな児童が増えたことは、一定の評価ができるだろう。

その理由として、大きく二つ考えられる。第一は、「4年1組 図書室へ行こう 大作戦」と、単元を貫く言語活動を位置付けたことにより、目的や必要性を子ども自身が実感して学習できたからだと考えられる。第二は、読書指導として取り入れた「リーディングパートナー」と本を読んだり、グループで話し合ったりして、本を読む楽しさにふれたり、新しいことに気付く楽しさを知ったからだと考えられる。

## 6. 今後の課題

### (1)「単元を貫く言語活動」のデータベースづくり

実践の詳細を知りたい場合、研究会の資料は、筆者への連絡が必要だが、図書については、学校にある場合が多いし、整備が望まれる。この表を基に、実践例を集めたり、その学校で行われた実践を追加したりして、その学校独自の実践事例検索となり、活用していただければこれほどの幸せはない。まずは、自分自身で、さらに勤務校の仲間と、より豊かで活用できる実践事例検索にしていきたい。

### (2)「単元を貫く言語活動」の充実に関する授業実践と検証

「単元を貫く言語活動」の充実には、「単元を貫く言語活動」を位置付けるだけでなく、「読む」行為をいかに改善させていくかにかかっていることが研究を通して分かってきた。そのために有効な方法としては、読書指導の中の「読む」行為を大切にしていこうと考える。来年度は、「単元を貫く言語活動」を充実させるために、読書指導自体の研究と、「読む」行為を含む読書指導をいかに授業に取り入れていくかの研究を進めていきたい。

## 7. 引用・参考文献

- ・有元秀文 2010年『PISA型読解力』の弱点を克服する『ブッククラブ』入門 明治図書
- ・花田修一・小森茂・水戸部修治・松木正子 2012年「実践国語研究 2012 6/7」明治図書
- ・花田修一・小森茂・水戸部修治・松木正子 2012年「実践国語研究 2012 8/9」明治図書
- ・岩手国語教育実践の会 2012年「第4回小学校全国国語教育研究大会 資料」
- ・ルーシー・カルキンズ 吉田新一郎・小坂敦子訳 2010年「リーディング・ワークショップ」新評論
- ・水戸部修治 平成22年「日本版『PISA スーツケース』の開発」研究報告書 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究(C) 課題番号 19530776
- ・水戸部修治編集 2012年「言語活動パーフェクトガイド 1. 2年」明治図書
- ・水戸部修治編集 2012年「言語活動パーフェクトガイド 3. 4年」明治図書
- ・水戸部修治編集 2012年「言語活動パーフェクトガイド 5. 6年」明治図書
- ・文部科学省 2011年「初等教育資料 平成23年4月号」東洋館出版
- ・文部科学省 2012年「初等教育資料 平成24年4月号」76 東洋館出版
- ・文部科学省(平成23年5版)「小学校学習指導要領解説 国語編」東洋館出版社
- ・文部科学省(平成23年)「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」東洋館出版社
- ・杉本直美 2010年「子どもが変わる読書指導—自立した読み手が育つ読書生活デザイン力」東洋館出版社
- ・富山哲也(文部科学省教科調査官) 2012年「〈単元構想表〉でつくる! 中学校国語科授業 START BOOK 第1学年」明治図書
- ・鶴田清司 2010年「対話・批評・活用の力を育てる国語の授業—PISA型読解力を超えて—」明治図書
- ・山梨県教育委員会義務教育課「平成24年度 教育課程指導資料」<http://www.ypec.ed.jp/gimukyo/>
- ・横浜市立小学校国語教育研究会 2010年「豊かな言語活動を図る単元の構想」東洋館出版